



祐介の目

No.149

大田祐介（福山市議会議員）

「ケーン」は素晴らしく、今でも忘れられない思い出。

さて、昭和の雰囲気を残す飲食店も減る一方だ。現在、寿司屋は回転寿司の全盛期だが、かつて大田記念病院の隣りに寿司蔵

昭和が終わる

昭和43年生まれの私が二十歳の時に昭和が終わった。昨年、昭和で一世風靡した多くのミュージシャンが亡くなった。YMOの二人は別格として、個人的にシーナ&ロケッツの鮎川誠と「銃を取れ」とギターを銃に模した頭脳警察のPANTA は感慨深い。二人の昭和を代表するロックンローラーに認められたのが私の同級生でギタリスト藤井一彦だ。頭脳警察の再結成に参加し、鮎川誠を兄貴のように慕っていた。昭和のロック魂を継承する福山出身の藤井一彦（G）と藤井ヤスチカ（Dr）によるThe GROOVERS を応援していただきたい。

次に私が選ぶ昭和の歌唱力No.1歌姫は本田美奈子さん。私と同級生の本田さんは38歳で白血病により早逝し本当に残念。19歳の時に鈴鹿8時間耐久レースの合間で映画撮影に臨んだ本田さんに遭遇した。その際に歌った「孤独なハリ

という名店があった。そこで修行して独立したのが「立樹」と「かじ多」であり、両店とも繁盛している。寿司蔵の跡には私がKOSUKE というカレー屋を開いたがコロナの間休業していた。春の選挙が終われば再オープンしてカレーも食べられるし、山野峡ワインも飲める店になる予定だ。

駅前で昭和が感じられるエリアと言えば伏見町、ここで60年以上営業している名店「かすり」をご存知だろうか。なんと地下にあり、一歩店内に入ると昭和にタイムスリップする。メニューも値段表も無いが瀬戸内の新鮮な魚介類でもてなしてくれ、会計を見て高いと思ったことは一度もない。私の隠れ家として内緒にしていたが、残念ながら3月末で閉店するそうだ。最後に皆さんも昭和の香りに包まれに行っていたきたい。

昭和が終わって35年、徐々に昭和の面影が消えていくのは寂しい限りだが、皆の記憶に残るかぎり昭和は終わらない。